

## 第2回 接合科学ヒストリア講演会「喫茶 接合ロマン」を開催

接合科学研究所 広報・企画委員長 井上 裕滋  
接合科学研究所 教授

日本に導入されて約100年が経つアーク溶接は、今日の工業製品を製造する上で欠くことのできない重要な加工技術であり、あらゆる産業分野で大きな役割を占めています。したがって、それらの歴史や開発経緯を学ぶことは、ものづくりにおける溶接・接合技術の重要性を再認識できるものと考えます。接合科学研究所では、広く一般市民の皆様に向けての学びの場として、接合科学ヒストリア講演会「喫茶 接合ロマン」を企画しています。

第2回目の今回は、日立精工(株)ならびにダイヘン溶接メカトロシステム(株)にて長らく溶接技術開発に携わってこられ、現在は大阪大学接合科学研究所の招へい教授である三田常夫氏をお招きし、「アーク溶接の発展経過」のタイトルで、令和2年1月21日(火)に大阪大学中之島センターにて開催しました。

各種アーク溶接法の溶接プロセスの開発経過とそれに用いられるアーク溶接電源の発展経過について、歴史のミニ情報を混じえながら講演いただきました。パワーエレクトロニクスならびに電子制御技術の進展を背景にして溶接機器・電源もアナログ制御からデジタル制御に著しく進歩し、溶接性・作業性の向上に大きく貢献していることなどが紹介されました。一般の方々は勿論のこと、教員でも初めて聞く内容が多く、非常に有意義な講演内容でした。当日は約35名の参加があり、参加者からは大変勉強になりましたとの感想が多数寄せられました。

